

HPV(子宮頸がん予防)ワクチンに慎重な方へ

一時期、副反応が懸念されたHPV(子宮頸がん予防)ワクチンですが、
さまざまな研究によって、現在は、その安全性が確認され、
令和4年4月より、国による積極的な勧めが再開されました。
本来の対象は12～16歳の女性ですが、
国が積極的に勧めていなかった期間に接種の機会を
逃してしまった女性は、**公費(無料)**で接種が可能です。



※HPVワクチンは、個人で接種すると通常費用(3回接種)で約5～10万円程度かかります。
※HPVワクチンは、16歳頃までに接種するのが最も効果が高いとされていますが、それ以降の年齢で接種し
てもある程度の有効性があることが国内外の研究で示されています。



若い女性の人生を大きく変えてしまうがんだからこそ
欧米等の多くの国でHPVワクチンによる**予防が進んでいます。**



医師として、自分の娘にもHPVワクチンを受けさせます。

HPVワクチンが彼女のからだと人生を守ってくれると確信しているので、その年齢になったら
強く勧めるつもりです。私の医師仲間にも「自分の娘にHPVワクチンを受けさせない」という
人はひとりもいません。

産婦人科医
宋 美玄さん

大阪大学医学部卒。診療と同時に、女性の健康と性について、女性の立場
からメディアを通じて積極的に発信している。2児の母。

MUFG 三菱UFJフィナンシャル・グループ

このリーフレットは三菱UFJフィナンシャル・グループの支援により制作されています。

子宮頸がんの 8～9割は ワクチンで予防 できます。



1997年4月～2008年3月に
生まれた女性へ

HPVワクチンの3回接種を終えていない方は
ぜひこの機会に接種してください。

2025年3月までの間、ワクチンの接種は

無料

対象者

- ◎1997年4月～2008年3月生まれ的女性
- ◎過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない方

※ワクチンの種類によって、予防効果には差があります。詳しくは、医師にお尋ねください。



一般社団法人
日本がん・生殖医療学会

20代女性の 死亡原因 第1位 (*自殺を除く) は まさかの、がん。



そのうちのひとつである子宮頸がんでは、
毎年、**交通事故の2.6倍**もの女性が亡くなっています。



※20代だけでなく女性全体の数字



子宮頸がんは、**毎年1,000人以上**の若い女性から、
「産む未来」を奪っています。

若い女性にも多い子宮頸がんは、進行すれば命を奪います。
ごく早期に発見できても、多くの場合、**子宮全摘出**となります。

妊娠中の検査で発見された場合、赤ちゃんごと子宮を摘出する場合もあります。

※放射線治療が行われることもありますが、妊娠する能力は失われます。

実話

赤ちゃんとうつを
一度に失った
希さん 仮名の症例

- ひとり子として育った希さんの夢は、たくさん子どもを作って、にぎやかな家庭をもつことでした。
- 24歳で結婚して、翌年に初めての妊娠。彼女は幸せの階段を登っていることを感じていました。
- ところが、妊娠健診で子宮に異常な細胞が発見されました。精密検査の結果は、早期(Ⅰb1期)の子宮頸がん。
- 早期とはいえ、がん細胞だけを切除することはできませんでした。希さんの子宮に16週の赤ちゃんが入ったまま、卵巣やリンパ節とともに摘出されました。
- 彼女は妊娠する3年前、子宮頸がん検診を受けていました。それだけ準備をしても、子宮頸がんは希さんから夢を奪っていきました。

子宮頸がんは、 他の多くのがんと違って、 加齢が原因ではありません。



1. 発症率

15年ほどの間に
若年層(25~29歳)の
子宮頸がん発症率は

約 **2.2倍**



※国立がん研究センターがん対策情報センター

2. 原因

原因となるのは、
セックスで感染する
ごくありふれたウイルス*です。

※ヒトパピローマウイルス



3. 罹患率

このウイルスに生涯に
一度でも感染するのは
セックス経験のある女性の

約 **80%**



4. 予防法

子宮頸がんのほとんどは
HPV感染がきっかけで
発症しますが、
HPVワクチンは
その8~9割を予防する
ことができます

